

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

清洲橋通り－1



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」と歩いてきました。

今回は「清洲橋通り」を歩きます。清洲橋通りは台東区北上野言問通りと昭和通りの入谷交差点を起点に、江東区東砂の荒川土手に至る延長約10kmの道です。写真右上は清洲橋通りの道路名標識です。起点からは区道のため道路名番号表示がありません。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[入谷交差点] 台東区北上野二丁目

最寄駅 東京メトロ日比谷線 入谷駅

写真下左は昭和通り（国道4号線）と言問通り（都道319号線）が交差する入谷交差点で、昭和通りの歩道橋下から右は上野方面、左は三ノ輪方面で、言問通りは鶯谷方面から直進して左上の浅草寺方面へ行きます。清洲橋通りの起点は交差点から左に入る道（写真下右の歩道橋に表示の左へ曲がる矢印）です。



ここの清洲橋通りは区道なので台東区の道路標示（写真下右）がありました。清洲橋通りを進むと右側に「柔道発祥の地の永昌寺」が見え（写真下左）、先は稲荷町交差点です。寅さん歩 15 東京の発祥之地めぐり（スポーツ編1）をご覧ください。



[稲荷町交差点] 台東区東上野六丁目

最寄駅 東京メトロ銀座線 稲荷町駅

稲荷町交差点（写真下右）で浅草通り（都道 453 号線）と交差します。左へ行くと浅草方面、右へ行くと上野駅方面です。



[元浅草一丁目交差点] 台東区元浅草一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 新御徒町駅



元浅草一丁目交差点（写真左）で春日通り（都道 453 号線）と交差します。左へ行くと厩橋方面、右へ行くと上野広小路方面、清洲橋通りは直進です。右側に佐竹商店街（写真下左）が見えます。佐竹商店街は明治の初年に秋田藩屋敷跡に出来た日本で二番目に古い商店街です。日本で一番古いのは戸越銀座商店街とのこと。



その先右側には「おかず横丁」（写真上右）があります。ぶらぶら歩けばごはんのおかずを手に入れて帰ることが出来る「鳥越本通り商店街」です。

[鳥越一丁目交差点] 台東区鳥越一丁目

最寄駅 JR 総武線 浅草橋駅

鳥越一丁目交差点（写真下右）で蔵前橋通り（都道 315 号線）と交差します。左へ行くと蔵前橋方面、右へ行くと外神田方面です。



[美倉橋] 千代田区東神田三丁目 最寄駅 JR 総武線 浅草橋駅

前方のJR総武線のガード（写真下左）をくぐると千代田区に入り、神田川にかかる美倉橋（写真下右）を渡ります。



[東神田交差点] 千代田区東神田二丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 岩本町駅

東神田交差点（写真下右）で靖国通り（都道 302 号線）と交差します。左へ行くと両国橋方面、右へ行くと須田町方面です。ここから清洲橋通りに都道 474 号線の名（写真下左）が付きました。



[東神田一丁目交差点・馬喰町交差点]

千代田区東神田一丁目

最寄駅 JR 総武線 馬喰町駅

清洲橋通りは東神田一丁目交差点（写真下左）で二股に分かれますが左へ道なりに進みます。右へ行くと岩本町一丁目から神田金物通り方面です。更に進むと、馬喰町交差点（写真下右）です。



[東日本橋交差点・久松町交差点]

中央区東日本橋三丁目・中央区日本橋久松町
最寄駅 都営地下鉄浅草線 東日本橋駅

東日本橋交差点（写真下左）で浅草橋方面から来た清杉通りと合流、久松町交差点（写真下右）で隅田川方面から来た浜町河岸通りと合流します。



[明治座・浜町公園] 中央区日本橋浜町二丁目

最寄駅 都営地下鉄新宿線 浜町駅

左側に明治座の看板（写真下左）、写真下右は明治座正面です。明治座は明治時代からの歴史を持つ、歌舞伎座や新橋演舞場と並ぶ東京を代表する劇場です。芸能人が座長の歌謡ショー形態の公演が多いのが特長です。



写真下左は明治座前の「浜町公園」入口で、左角に「明治観音堂」がありました（写真下右）。説明板を読むと、「昭和 20 年 3 月 10 日の戦災により死没した幾多の霊の冥福を祈るために昭和 25 年に建立」と記載。浜町公園の先は隅田川です。浜町公園はウォーキングの昼食場所によく利用しました。



[浜町中ノ橋交差点] 中央区日本橋浜町三丁目

最寄駅 都営地下鉄新宿線 浜町駅

浜町中ノ橋交差点（写真下右）で新大橋通り（都道 50 号線）と交差します。左へ行くと新大橋方面、右へ行くと水天宮方面です。清洲橋通りの道路名は都道 474 号線の表示です。



[濱町神社] 中央区日本橋浜町三丁目

最寄駅 都営地下鉄新宿線 浜町駅

右側に神社が見えたので右に渡ると、濱町神社（写真下左）でした。境内の由来記を読むと「天明年間（1781年～1789年）に島津家下屋敷内の守護神にして島津稻荷大神として、奉齋してありしを、1887年（明治20年）同所を分譲地として浜町三丁目となりて後も、引き続いて浜町の守護神として奉齋せり。関東大震災後の社殿再建の際に、神田区西福田町に鎮座せる、山田稻荷を合祀して稻荷神社と改称する。その後の戦災で再度消失、1953年（昭和28年）再建、名称も濱町神社と改称する。以下略」と記載。境内には「陶栄神社」（写真下右）もありました。家に戻り調べると、祭神は陶工の神様や有名な陶工でこの辺りは昔「瀬戸物の街」だったことで境内社として祀られているようです。



少し進むと、左側に金比羅宮（写真下左）がありました。

1783年（天明3年）創建、隅田川往来の舟人の守護神として信仰を集めていたそうです。

この地は明治初期の日本橋中洲の埋立に伴い祀られた船玉琴平宮が起源で、関東大震災で焼失、戦後に香川の金毘羅宮より分霊、再建されました。

日本橋中洲は江戸初期には両国と並び栄えたという場所だそうです。

清洲橋の手前まで来ました。今回はここまでとします。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩379 令和3年10月から掲載済です。

今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進捗のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年8月12日神奈川宿（現在の神奈川県横浜市）（江戸日本橋から28km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「神奈川台之原」です。台の原とは高台からの景色の意味です。東京湾を見渡せる高台に茶屋が並んでいました。街道沿いに並ぶ茶屋の前には呼子が旅人を店に誘います。巡礼の親子は静かに歩を進めます。



写真上は横浜名物「崎陽軒のシウマイ弁当」です。寅次郎の好物でなぜか海外旅行から帰国後の最初の日本食はこれにしています。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝